

静環検査センター

最新機器を駆使して多彩な検査・分析に対応

静岡県藤枝市に本社を置く静環検査センターは、1984年に環境計量証明事業所および登録衛生検査所として設立されて以来、「迅速な対応」「公正で確実なデータの提供」「高品質なサービス」を基本理念として事業を展開している。食品検査や医薬品検査、環境アセスメント、水質分析、浴槽水・プール水検査、放射能分析など、生活と環境に関わる幅広い分野の検査・分析を受託し、最新鋭の分析装置と蓄積されたノウハウを生かして、多様なニーズに対応している。民間企業からの各種依頼や技術相談に加え、官公庁・自治体からの案件も多数手がけており、地域社会と産業界の双方を支える豊富な受託実績を有している。



▶施設外観

幅広い検査・分析項目に対応

静環検査センターのモットーは「すべてに『検査』を。All you need is Labo!」。その言葉通り、例えば、東日本大震災の後には放射能検査、新型コロナ禍ではPCR検査の体制を迅速に構築するなど、依頼者の要望に応じて、その都度、対応可能な項目の拡充を図ってきた。最近話題のPFAS（有機フッ素化合物）についても水道水や飲料水、環境水（地下水など）から、産物、土壌、血液まで幅広く対応している。営業拠点は福島から沖縄まで全国各地、検査所は静岡、大阪、福岡および鹿児島に設置。2020年には神奈川に「大気環境イノベーションセンター」を開設し、最先端技術を用いた調査・研究を展開している。

藤枝市の検査所では、理科学分析ではガスクロマトグラフィや液体クロマトグラフィ、質量分析計、ICP 発光分光分析装置、放射能測定装置など、最新機種を含めた複数台の分析機器を保有し、顧客の多様化する依頼に対応している。例えば水質検査であれば、水の清浄度（汚染度）に応じて分析装置を使い分けるなど、できるだけ効果的・効率的な分析法を提案できる体制も整えている。微生物検査も従来の寒天培地による培養法から、リアルタイムPCRやDNAシーケンサーを用いた遺伝子手法まで、多彩な技術を使い分けている。

異業種の見識・技術が応用可能

同社は近年、食品分野の検査にも注力している。検査メニューは、食品中の微生物検

査や製造・調理環境の衛生検査、従事者の保菌検査（検便）をはじめ、残留農薬分析や栄養成分分析など、受託可能な検査項目のラインアップの幅を広げている。また、JFS-A/B*規格の監査業務も請け負っている。

HACCP制度化の施行後、特に食品検査や衛生検査の引き合いが強まっているという。担当者は「以前は何か問題が起きた後の事後対応としての検査依頼が多かったが、最近は『自社で把握していない材質について調べたい』『自社で想定されるハザードについて確認したい』といった『未然防止』の意識が強まっている。また、HACCPの一般衛生管理の部分、特に施設設備の清浄度確認、環境モニタリングへの関心の高まりを感じる」と語る。

同社の検査・分析サービスの特徴の一つとして、（もともと工業分野や医薬品分野の取引先も多いことから）異業種・多分野の技術やノウハウ、知見を水平展開できる点が挙げられる。例えば特殊分析（異物分析）のサービスでは、FT-IR（フーリエ変換赤外分光光度計）などの分析機器を用いた元素分析や構造解析が行えるため、より高精度に異物の種類や混入経路の推測が可能となっている。担当者は「従来の方法から、他業種で用いられている新しい方法まで、多様なアプローチで対応できる。この特徴を生かして『静環検査センターならではのサービス』の提供につなげていきたい」と語っている。

* JFS-A/B 規格 = JFS 規格は日本発の食品安全管理規格で、食品安全マネジメント協会（JFSM）が規格の発行や改訂、運用状況などを管理している。JFS-A は主に一般衛生管理、JFS-B は一般衛生管理と HACCP の規格要求事項を設けており、食品企業は監査組織から適合証明を受けることができる。

情報・技術は常にアップデート

世界の食品検査・分析の技術は、常にアップデートが進んでいる。特に迅速法、代替法（公定法と同等の精度を有する、公定法以外の検査・分析法）の分野は、日進月歩の勢いで進化・発展を遂げている。食品分野では、

そうした先端情報に目を光らせながら、検査・分析の目的に応じて、最適の検査・分析法を選定し、その結果を現場にフィードバックすることで、組織や現場の継続的改善（PDCA サイクル）につなげる取り組みが求められる。

同社の杉本郁乃取締役は「当社は、業種の垣根を横断して知見や技術、経験を蓄積し、それを検査・分析サービスにフィードバックする姿勢で業務に臨んでいる。食品や医薬品、工業をはじめ、さまざまな分野の先端情報を積極的に取り入れ、その技術に投資することで、ユーザーの要望に迅速かつ的確に対応していきたい」と語る。静環検査センターでは業種を横断して蓄積してきた検査・分析の実績、構築してきたデータベースなどを最大限に活用するなかで、今後も食品業界のさまざまな依頼や相談に対応し、日本の食品安全、公衆衛生の水準向上に貢献を続けていく。



①ガスクロマトグラフ質量分析計
②液体クロマトグラフ質量分析計
③FT-IR ④DNAシーケンサー
⑤培地による微生物検査
⑥放射能測定装置